

事業番号	10 03 01	事業改善シート（28年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	木育推進事業 (森林づくり県民税活用事業)			担当課	部局	林務部	
				課・局・室	信州の木活用課県産材利用推進室		
総合5か年計画	プロジェクト						
	施策の総合的展開	1-4 森林を活かす力強い林業・木材産業づくり 2 信州の木の利用促進					
人口定着・確かな暮らし実現総合戦略	信州創生の基本方針						
	施策展開						
				実施期間	H20 ~ H29		

## 1 事業の概要

目指す姿	里山等の身近な資源である木材を子どもの頃から身近で学習できる機会を提供するため、「木育」としての活動を積極的に支援し、木材に対する親しみや木の文化に対する理解を深めるとともに地域に根差した心豊かな県民性を育む。 全市町村で実施することにより、里山との関わりが少ない都市部での活動が増進し、身近な木材利用の促進に繋げる。 成果目標：木育推進事業の実施市町村数 51市町村(H24) → 77市町村(H29)		
現状(予算編成時)	○里山との関わりが薄れ、日常的に木材が利用される環境が減少しており、県産材の利用が進んでいない。 ○将来を担う子ども達に、木材への理解を深めてもらうために、多様な関係者が連携・協力して行われる木育活動を支援し、木材に対する親しみや木の文化に対する理解を深めるとともに地域に根差した心豊かな県民性を育む必要がある。 ○木育推進事業の実施市町村数：68市町村(H27見込み)		

県が関与する理由	県でなければ実施不可(その他)	【左記の説明、根拠法令等】
	県民との協働による実施： 検討中	長野県森林づくり県民税条例 長野県森林づくり県民税活用事業

成果目標・事業内容	① 成果目標(H28)						
	○全ての市町村での活動を推進するため、平成28年度までの木育推進事業の実施市町村数(累計)を73市町村とする。うち新規市町村数は、5市町村とする。						
	② 事業内容 (単位:千円)						
	項目	実施方法	H28事業実績		H28		H29
				(当初)	(決算)	(当初)	
	1. 県域活動支援	補助金	・県内小中学校を対象とした木育コンテスト等支援 1件 補助率:1/2 補助金交付先:長野県木材青年団体連合会	700	700	700	
	2. 木育活動支援	補助金	・地域材を活用した子どもが学びながら行う活動支援 補助率:10/10、補助金交付先:市町村等	9,025	8,950	7,654	
	3. 木育推進員の派遣等	直接	・地域での活動への木育推進員の派遣 82時間	511	317	573	
			合計	10,236	9,967	8,927	

事業コスト	区分(単位:千円)				成果目標の達成状況							
	予算額	前年度繰越				項目	H26末	H27末	H28			H29 目標
		当初予算	9,860	10,236	8,927				目標	成果	達成状況	
		補正予算										
		合計(A)	9,860	10,236	8,927				木育推進事業の実 施市町村	63	68	
	Aの財源	一般財源										
		県債										
		国庫支出金										
		その他	9,860	10,236	8,927							
	決算額(B)	8,994	9,967									
概算人件費	職員数(人)	0.05	0.05	0.05								
	概算人件費(C)	414	396	396								
概算事業費(B(A)+C)	9,408	10,363	9,323									

目標に対する成果の状況	目標とした73市町村で実施された。本事業では、平成20年度から平成28年度までに県内各地の延べ246箇所で開催された事業が実施されるとともに、県域の活動として県内の小・中学校、特別支援学校を対象に開催した木工工作コンクールでは、総参加人数が増加するなど木育に対する関心が高まっている。
-------------	--

## 2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施  全県での恒常的な木育導入の機運を熟成させるため、今後も引き続き実施する。
--------------------	---